

インド 紅海の紛争でリンゴとオレンジの小売価格が上昇

FreshPlaza 2024年2月13日

インドの消費者は今年、リンゴとオレンジにより多くの金を払わなければならないだろう。紅海の水運に対するフシ派の攻撃の脅威が続いているため、船会社は南アフリカ沿岸を経由する航路への変更を余儀なくされている。これは輸送コストを増加させるだけでなく、果実の鮮度にも影響する。国内の農産物はすでに異常気象に見舞われており、これらの果実の価格は上昇すると見られる。

果実輸出入の大手であるユパーフルーツ社のパース・カルバト取締役は、「船会社は今、ケープタウン航路を経由して船を航行させている。そのため、ムンバイに着くまでに時間がかかり、農産物は長い時間輸送状態に置かれている」と状況を説明した。この航路の延長によって、船で21トンのリンゴを運ぶ輸送コストが2千〜3千ドル増加し、着荷時の価格が高くなっている。

カルバト氏は、「計算してみると、リンゴの価格は200〜220ルピー/kg(100ルピー = 1.10ユーロ)で、昨年に比べて18〜20ルピー/kg高くなっている」と言う。ヒマーチャル・プラデーシュ州が季節外れの雨に見舞われ、インドは現在輸入に頼っており、トルコ、米国、エジプトが主要な供給国となっている。同氏は、入荷し始めているエジプト産とトルコ産のオレンジも同様の価格動向になると予測している。

プネー市のグルテクディ地区にある卸売市場の販売代理人であるローハ・ウルサル氏も、価格が上昇していると言い、「トルコ産のリンゴは現在、18kg箱当たり2,200〜2,300ルピーで販売されている。小売市場では、高品質のリンゴは200ルピー/kg以下では入手できない」と話す。同氏はまた、国産品の品質に問題があり、エジプト産のオレンジが国内需要に合致するため、価格が上昇すると予想している。

出典: [indianexpress.com](https://www.indianexpress.com)

米国 2023年の柑橘類輸出実績はわずかに増加

The Packer 2024年2月14日

貿易統計によると、2023年の米国の柑橘類の総輸出額は前年比で2%増加した。

柑橘類の品目別では、2023暦年の米国のオレンジ輸出額は6億290万ドルで、2022年に比べて8%増加したが、2021年に比べて14%減少した。

レモンとライムの2023年の輸出額は1億3,430万ドルで、2022年から12%、2021年から5%減少した。

グレープフルーツの輸出額は3,100万ドルで、2022年から16%、2021年に比べて38%減少した。

「その他の柑橘類」カテゴリーの2023年の輸出額は1,780万ドルで、2022年から24%減少し、2021年より28%少なかった。

カナダは、2023年の米国産柑橘類の最大の市場であった。米国のオレンジとタンジェリンの輸出額は合わせて1億6,830万ドルで、2022年に比べて13%増加した。カナダへのレモンとライムの輸出額は5,090万ドルで、2022年から1%減少した。2023年の米国からカナダへのグレープフルーツの輸出額は840万ドルで、前年比15%減となった。

韓国は米国の柑橘類の第2の輸出先で、オレンジとタンジェリンの輸出額は2022年に比べて1%増の1億3,540万ドルであった。韓国へのレモンとライムの輸出額は2,880万ドルで、前年比6%減であった。

このレポートのその他の要点は次のとおりである。

- ・ 日本は2023年に米国産のオレンジとタンジェリンを6,990万ドル購入し、2022年に比べ2%減少した。
- ・ 香港は2023年に5,160万ドルの米国産オレンジを購入し、前年比17%増となった。
- ・ 2023年のメキシコ向け米国産オレンジとタンジェリンの販売額は4,720万ドルで、62%増加した。

執筆者: トム・カースト